



2021.2.25 サステナビリティ日本フォーラム

サントリーグループの サステナビリティ経営

サントリーホールディングス株式会社
コーポレートサステナビリティ推進本部
内貴 研二

サントリーの創業



創業者 鳥井 信治郎
(1879-1962)



1899年(明治32年)

鳥井信治郎が大阪市西区に鳥井商店を開業
ぶどう酒の製造販売を始める

やってみなはれ

⇒ 現状に満足せず、絶えず成長する企業でありたい

利益三分主義

⇒ 高品質の商品・サービスの提供のみならず、
真に豊かな社会実現に寄与する企業でありたい

利益三分主義の実践①

社会福祉法人 邦寿会



公益財団法人 サントリー芸術財団

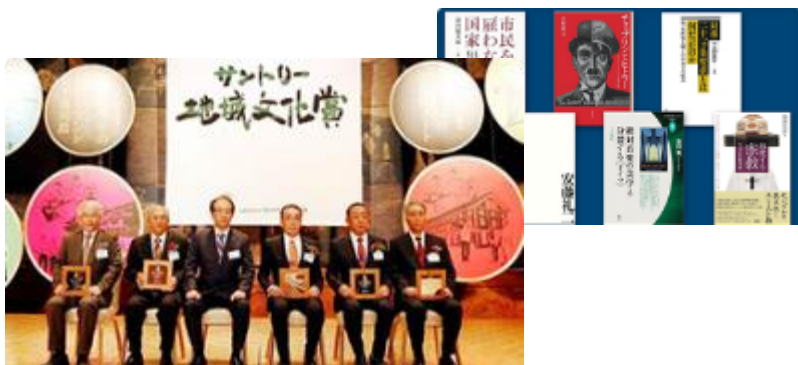
● サントリー美術館



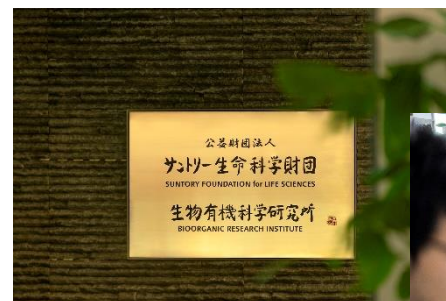
● サントリーホール



公益財団法人 サントリー文化財団



公益財団法人 サントリー生命科学財団



利益三分主義の実践②

スポーツ

● ラグビー部 サンゴリアス / バレーボール部 サンバーズ

● チャレンジド・スポーツ



次世代育成支援



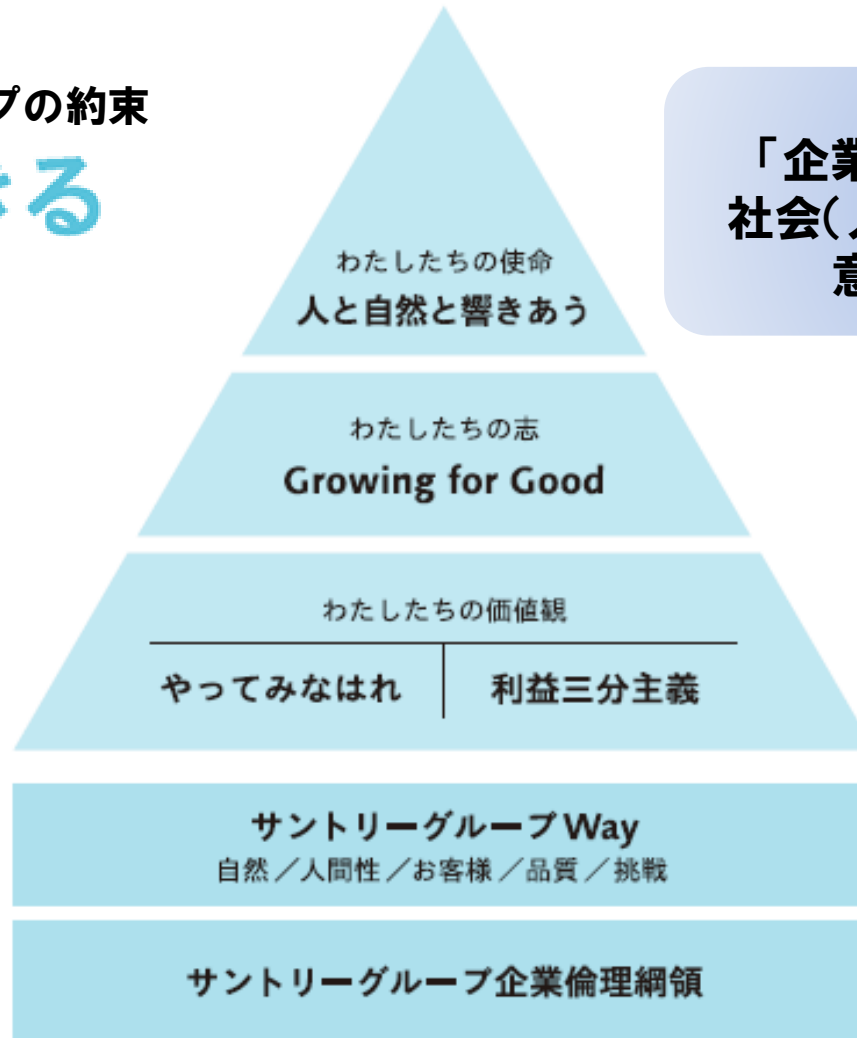
被災地支援



サントリーの企業理念体系とサステナビリティ経営

サントリーグループの約束

水と生きる



「企業理念」には、自然環境と社会(人)とともに成長するという
意思が込められている

サステナビリティ・ビジョン

水や農作物など自然の恵みに支えられた総合酒類食品企業として、「人と自然と響きあう」を使命に掲げ、人々の生活を潤い豊かにすることと自然環境を守り育てることが矛盾せず幸福な関係で結ばれ、永く持続していく社会をめざします。

サステナビリティに関する7つのテーマ

- 水** 水管理、水資源の保全、水教育の推進
- CO2** 事業活動全体でのCO2削減
- 原料** 水不足・産地の変化、調達先の人権問題への対応
- 包材** プラスチックを含めた主要な包材での循環経済の推進
- 健康** 飲料・健食を通じた健康増進、責任ある飲酒の推進
- 人権** サプライチェーン全体の人権保護、ダイバーシティ推進
- 生活文化** 企業活動全体を通じて心身とも豊かな社会の実現に貢献

関連するSDGs※



※ Sustainable Development Goals

サントリーのオリジンは“水”



創業者
鳥井 信治郎



2代目社長
佐治 敬三

1899年
創業

1923年
山崎蒸溜所建設



ウイスキーの語源は 徹底的な水探しから

“生命の水”

1963年
ビール事業に進出



工場建設は

1973年
白州蒸留所建設



1991年
「天然水」発売



サントリーグループ 『水理念』

水はグループにとってもっとも重要な原料であり、かつ、貴重な共有資源です。環境基本方針の最上位に掲げる「水のサステナビリティの実現」に向けて、次の理念をグループ全体で共有し、ステークホルダーの期待に応えていきます。

1. 水循環を知る

- 使用する水の循環について科学的アプローチに従って流域を調べ、理解を深めます。

2. 大切に使う

- 水の3R(Reduce/Reuse/Recycle)活動を通じて節水に努め、浄化した水は自然に還し、環境インパクトを軽減します。

3. 水源を守る

- サステナブルな未来を実現していくため、ステークホルダーと協力しながら使用する水の水源保全に努めます。

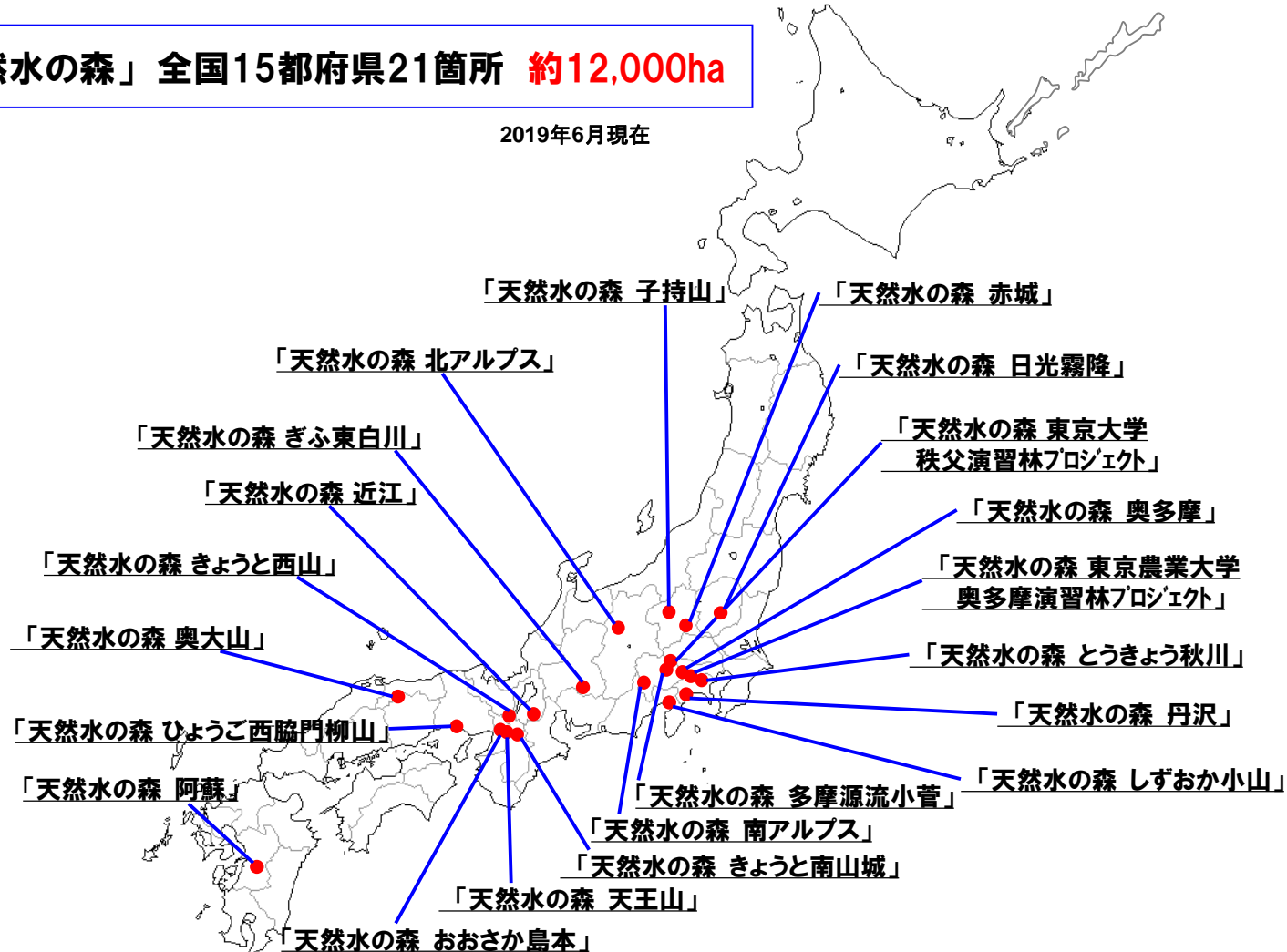
4. 地域社会と共に取組む

- 社会が豊かになるように、水課題の解決への貢献を通じて地域コミュニティを支援します。

サントリー天然水の森

「天然水の森」全国15都府県21箇所 約12,000ha

2019年6月現在



『工場で汲み上げる地下水の2倍以上の水』を、工場の水源涵養エリアの森で育む ¹⁰

サントリー 次世代環境教育「水育」

みずいく

「水育」は、子どもたちが、自然のすばらしさを感じ、水や、水を育む森の大切さに気づき、未来に水を引き継ぐために何ができるかを考える、次世代に向けたプログラムです。

水育

「水育」として商標登録

「森と水の学校」

2004年～(16年目)
690回 約25,000人



【実施エリア】
白州校(サントリー天然水白州工場)
奥大山校(サントリー天然水奥大山ブナの森工場)
阿蘇校(サントリー九州熊本工場)
【対象】 小学校3～6年生と保護者

「出張授業」

2006年～(14年目)
1,800校 約138,000人



【実施エリア】
首都圏、京阪神、山梨県、鳥取県、熊本県
愛知県、岐阜県
【対象】 小学校4～5年生

グローバル水育の展開

水

水の大切さを教えることは世界共通での前提としながら、
地域の課題に応じてグローバルに拡大



- 水の循環
- 地下水を育む森の大切さ
- 水の大切な使い方



2004~



2015~



- ベトナム教育訓練省、および学生連盟からの理解と協力を得て展開地域を拡大
- 2015年開始以来、累計18,000人の生徒に実施

<ローカルコンテンツ>

- 水の衛生的な使い方の教育
- 浄化設備の提供
- ゴミの正しい捨て方(プラスチック)



2019~



- 5月末のチェンマイでの水保全活動から始動
- 工場があるラヨン、サラブリーを中心に35校1,100人に水育実施予定

<ローカルコンテンツ>

- タイの水源を多くを占める北部山間部での水保全活動
- ゴミの正しい捨て方(プラスチック)



2019~



- 4月にパイロットプログラムが始動、7月以降エリア拡大
- 初年度は4州17校にて1,000人に水育を実施予定

<ローカルコンテンツ>

- 水の汚染や汚染をなくす工夫
- 雨水貯水などのアクション
- ゴミの正しい捨て方(プラスチック)

12

海洋プラスチック問題

- ポイ捨てなどによって海に流れ込み、長期にわたって残存する「海洋プラスチックごみ」が地球規模での環境汚染を引き起こしているとして、世界的に危機感が高まっている
- 海洋中で細かく砕けて5ミリメートル以下の微粒子となった「マイクロプラスチック」は有害物質を付着しやすく、食物連鎖による人体への悪影響が懸念されている

海洋プラスチック問題の現状（概要）

1. 海岸での漂着ごみの事例



山形県酒田市飛島



長崎県対馬市

2. 漂着物の例



漁具



洗剤容器



ポリタンク

3. 想定される被害

- ・ 生態系を含めた海洋環境への影響
- ・ 船舶航行への障害
- ・ 観光・漁業への影響
- ・ 沿岸域居住環境への影響

⇒近年、海洋中のマイクロプラスチック（※）が生態系に及ぼす影響が懸念されている。
※サイズが5mm以下の微細なプラスチックごみ



出典：UN World Oceans Day



出典：タイ天然資源環境省



マイクロビーズ



微細なプラスチック片

プラスチックは、その有用性から我々の豊かな生活に大きな貢献をしている。使用後のプラスチックをゴミではなく、有用な資源と位置づけ、リサイクルと省資源化により、循環型社会そして脱炭素社会の実現に貢献していく。



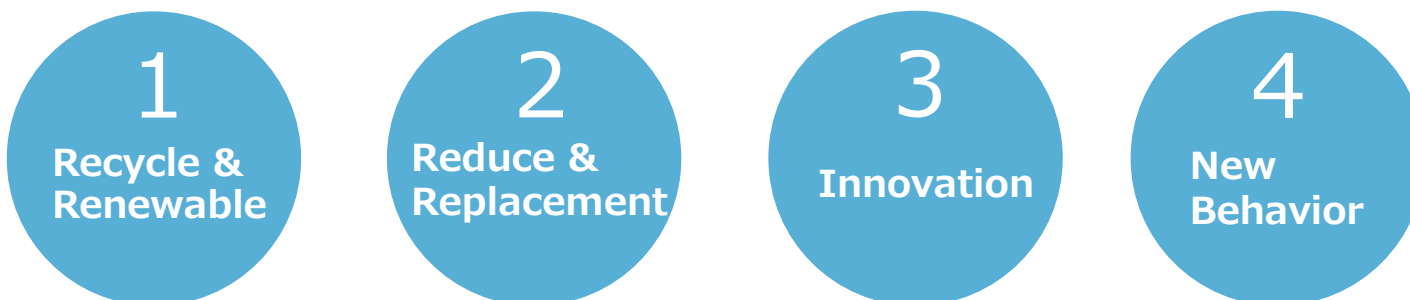
- ◆リサイクルを促進する社会・仕組みづくり
- ◆リサイクル技術のR&Dへの投資
- ◆社会、生活者、社員の意識醸成

サントリーグループ「プラスチック基本方針」

サントリーグループは、商品の源泉である自然の恵みに感謝し、多様な生命が輝き響きあう世界の実現にむけて、循環型かつ脱炭素社会への変革を強力に先導します。

プラスチックはその有用性により、われわれの生活にさまざまな恩恵をもたらしています。当社が使用するプラスチック製容器包装が有用な機能を保持しつつも、地球環境へネガティブな影響を与えないよう、多様なステークホルダーと、問題解決に向けた取り組みを推進していきます。また、問題解決に向けサントリー社員の一人ひとりが責任ある行動に努め、持続可能な社会を率先して実現します。

2019年5月制定



PETボトルリサイクルの現状①

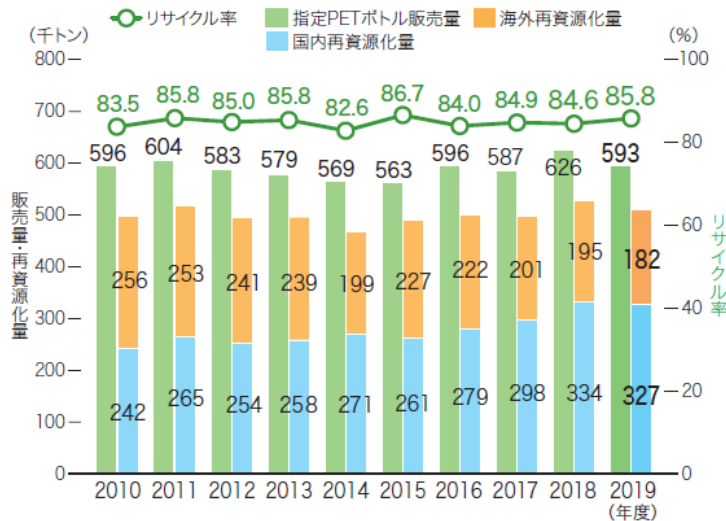
ペットボトルリサイクル率

85.8%

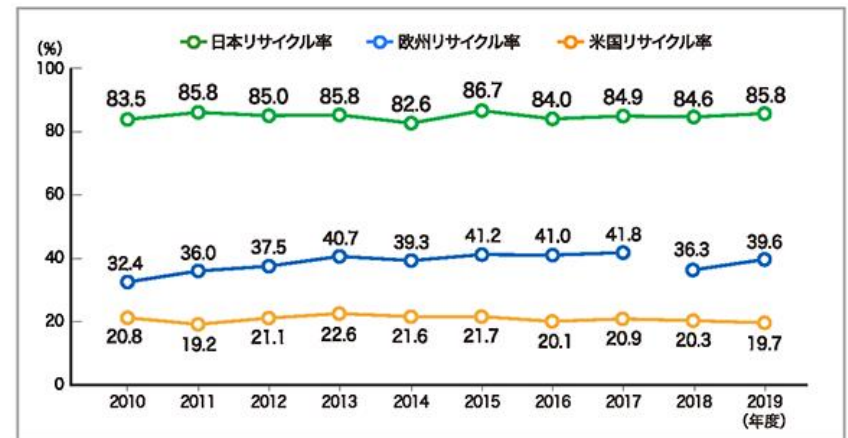
*参考データ
ペットボトル回収率

93.0%

図4. 国内再資源化と海外再資源化



■日米欧リサイクル状況比較



※データ元:
PETボトルリサイクル推進協会

わが国のPETボトルの回収率およびリサイクル率は世界でも高水準

PETボトルリサイクルの現状②



サントリー調べ 参照データ(2019年):産業環境管理協会リサイクルデータブック、PETボトルリサイクル推進協議会、貿易統計

**PETボトルのリサイクルはカスケードが主流であり、
ボトルtoボトルの水平循環拡大が課題**

ボトルからボトルへ：BtoBリサイクル技術の深化

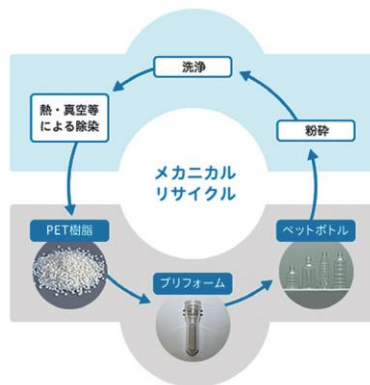
国内飲料業界で初めて ペットボトルのボトルtoボトルリサイクルシステムを開発

世界で初めて開発 最先端リサイクル技術である「FtoPダイレクトリサイクル技術」

BtoBリサイクルシステム

使用済みボトルを再生して新たなボトルを生み出す B to B (ボトルtoボトル) 発想のもと、PET樹脂の不純物を高温・減圧下で吸い出して、再びペットボトルとして利用。

SUNTORY × KYOJI



FtoPダイレクトリサイクル技術

ペットボトルリサイクルの一部工程を省くことで、環境負荷低減と再生効率化を実現。この技術により、新たに石油由来原料を使用する場合と比較して、CO₂排出量は60%以上※削減。

※石油由来PETを使用したプリフォーム製造との比較

SUNTORY

×

Bottle to Bottle Mechanical Recycling B to B メカニカルリサイクル

KYOJI

×

SIPA

×

EREMA
PLASTIC RECYCLING SYSTEMS

Flake to Preform Direct Recycling F to P ダイレクトリサイクル



化石由来原料の新規使用ゼロの実現

2030年までに、グローバルで使用するすべてのペットボトルを、リサイクル素材あるいは植物由来素材100%に切り替え、新たな化石由来原料の使用ゼロの実現を目指します。



水と生きる SUNTORY



サントリーグループは、水や農作物など自然の恵みに支えられた総合酒類食品企業として、「人と自然と響きあう」を使命に掲げ人々の生活を潤い豊かにすることと自然環境を守り育むことが共存し人と自然が互いにより影響を与えあって永く持続していく社会をめざします。



To create harmony with people and nature

